

てどこを掘っても水は出る。他の城下町では、上水としての掘り井戸がある場所に上水木樋が敷設されている例はほとんどない。おそらく掘り井戸から湧き出る水の水質が、飲用に耐えないものであったと考えられる。つまり防火用水・止井戸などの中水道として掘り井戸が機能していたのではないだろう。

松代には全国的にも珍しい、様々な水系システムが存在している（長野市教委1982）。道路の中心を流れる「カワ」、宅地裏の境界線である割割り流れ武家地の菜園を潤す「セギ」、生活用水として屋敷地の泉水を直接つなぐ「泉水路」である。今回の発掘調査ではこれらに加えて木樋による上水施設の存在が明らかとなった。こうした上水木樋が、侍屋敷だけではなく町人町である町屋にも敷設されていることで、松代城下町全体に上水道網が整備されていたことが推測できる。調査後の将来的な検討課題として、真田家文書などに残る水道普請などの工事記録と発掘調査成果との照合を検討してみたい。

第3節 幼児骨埋葬墓と副葬品

さらにD5区⑤次面より検出された、幼児骨埋葬墓がある。木蓋のある幼児用の小さい早桶で、幼児骨は布（あるいは織物）でくるまれていた。人骨そのものは原位置を保っているとは考えにくい状況であるが、副葬品が添えられていた。本体部分は遺存していないものの、金具部分と鈴や印籠などがあり、真田宝物館の婚礼道具の中にある「筒守」（つつまもり）という子供のお守りと同じ形態のものであると考えられる。通常、屋敷墓は屋敷地の裏手にあるものがほとんどであるが、街道側それも門推定地の近くに埋葬されている点は例がない。

幼児骨の鑑定調査結果によると、幼児骨の推定年齢は2～3歳と調べられている。脳頭蓋では長さ×高さ×幅は江戸時代幼児人骨の平均より小さく幅広で、顔面は全体的に小さく華奢であり、高眼窩・狭顔などのいわゆる「貴族的な特徴」と一致する特徴が認められるのである。一般に、江戸時代の上流武士の多くは、庶民とは区別される細長く極端に華奢な「貴族的な特徴」を持つようになったと考えられている。つまり、限られた上流階級集団の中で婚姻を繰り返して、柔らかい食物を摂取するなど、徳川將軍家を規範とする非庶民的な生活の結果であり、この特徴は世代を重ねるとともに強化されているらしい。D5区④次面に検出された掘立柱建物の柱材については、放射性炭素年代測定により1610～1620年±40年、つまり17世紀前半の推定時期が与えられている。幼児骨が埋葬された層位は⑤次面であり、④次面より上層には早桶を掘り込んだ痕跡はみられなかったことから、下限としてとらえることができよう。あくまで可能性としての推測であるが、真田信之の松代移封が1622（元和8）年とされていることから、真田以前の領主に仕えていた上級家臣の墓筋、との見方もできよう。

第4節 結 語

発掘調査成果から、現段階ではあくまで推測の域を出ないが、松代城下町の中心部の町並みが想像できるようになったと言える。

B6～7区にかけては刀装具が多量出土し、A7区の第3焼土層からは肥前陶磁器が重ねられて倒壊した状態で多量に出土し、江戸時代砥石のブランド品である砥沢産未使用品の砥石も出土している。A5区の第1焼土層からは明治20年代の陶磁器が多量に出土し、飲食店が被災した可能性が考えられる。A1・5区、B7区は銭貨が多量に出土し、B2～5区は土蔵の可能性が考えられる布掘り礎石建物が検出された。D5～8区の掘立柱建物は、侍屋敷の門に関連する建物が推測され、D6区からはおびただしい量の下駄・桶・箸が出土した。これらの事象から当時の建物機能（店舗であれば取扱商品など）を推定することは、きわめてむずかしいが不可能では

ないと考えられる。しかしあくまで推測の域を出るものではなく、また別の複雑な問題が発生する危険性を内包させている。むしろ研究材料として考古学的な資料の提示にとどめ、広く周知し、松代城下町の様相解明に向けての環境を整備することが第一義である。松代城下町における初めての発掘調査であること、出土遺物が人々の生活に密着していること、マスコミに取り上げられたことなど長野市民をはじめ県内外の耳目を集めた調査であるために、なおいっそうの研鑽と自戒が必要となろう。

平成14年度には、松代藩文化施設管理事務所の依頼により松代城下町の特別展示が企画され、パネル展示としての発掘調査の写真資料と、若干の出土遺物を貸し出した。真田宝物館の季節展示として3ヶ月間は展示されたが、見学者の関心が高かったという。また、平成17年3月5日から開催している当センターの発掘調査速報展「掘った！見つけた！松代発掘ものがたり ～原始・古代から江戸時代まで～」では松代地区の発掘成果を紹介し、なかでも保存処理が終了し初公開となる上水木樋は見学者の関心をひいている。原始・古代とは趣の違う近世江戸時代、また町屋という庶民の生活に密接に関係した「身近な」感覚の時代像が影響しているものと考えられる。また発掘調査の中間概要報告を望む声が高く、これまでに松代城下町関係の講演依頼は5回を数える。平成16年度に開催された「エコール・ド・まつしろ2004」、そして引き続き開催されている「エコール・ド・まつしろ2005」に関連して、市民の関心もさらに高まってきているといえよう。

引用・参考文献

- 飯田市教育委員会 2001 『飯田城下町遺跡』
飯田市教育委員会 2002a 『飯田城下町情報センター敷地内遺跡』飯山市埋蔵文化財調査報告 第65集
飯田市教育委員会 2002b 『長野県史跡飯山城跡遺構確認調査報告』飯山市埋蔵文化財調査報告 第67集
江戸遺跡研究会編 2001 『図説 江戸考古学研究辞典』柏書房
江戸東京博物館編 1993 『江戸東京博物館総合案内』財団法人江戸東京歴史財団
大塚初重ほか 1994 『八百八町の考古学』シンポジウム江戸を掘る 山川出版社
大橋康二編 1988 『肥前磁器の変遷図』『別冊太陽 古伊万里』日本のこころ63 平凡社
大橋康二 1989 『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社
大橋康二 2000 『九州陶磁概論』『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会10周年記念 図録
大橋康二 1995 『建築史からみた発掘資料』『季刊考古学』第53号 特集◎江戸時代の発掘と文化 雄山閣出版
北原糸子 1999 『江戸城外堀物語』ちくま新書209 筑摩書房
北村 保 1987 『松代藩士の見聞録にみる江戸後期の松代城下町』『松代—真田の歴史と文化—』創刊号 真田宝物館
北村 保 1992 『近世松代火難雑考』『松代—真田の歴史と文化—』第5号 真田宝物館
北村 保 1993 『享保二年松代城類火焼失録』『松代—真田の歴史と文化—』第6号 真田宝物館
古泉 弘 1983 『江戸を掘る—近世考古学への招待—』柏書房
古泉 弘 1985 『江戸の街の出土遺物—その展望—』『季刊考古学』第13号 特集◎江戸時代を掘る 雄山閣出版
古泉 弘 1987 『江戸の考古学』考古学ライブラリー48 ニュー・サイエンス社
齋藤 進 1997 『沙留遺跡における上水施設について』『沙留遺跡Ⅰ』東京都埋蔵文化財センター調査報告第37集
坂部智美 1999 『江戸城下町における「水」支配』専修大学出版局
佐々木邦博・米林由美子・平岡直樹 2001 『城下町松代（殿町地区）において江戸時代に造られた泉水路の形成過程とその用途』『日本造園学会誌』VOL. 64 NO. 5 日本造園学会
佐々木達夫 1985 『物資の流れ—江戸の陶磁器—』『季刊考古学』第13号 特集◎江戸時代を掘る 雄山閣出版
寒川典昭・山下伊子造・南志郎 1992 『千曲川下流の歴史洪水の復元と考察』『土木史研究』第12号
信州大学工学部建築工学科松本研究室 1984 『長野市松代三町伝統環境保存計画策定調査報告書』
新宿区内藤町遺跡調査会ほか 1992 『内藤町遺跡』

- 竹内誠監修 2002 『ビジュアルガイド江戸時代館』全1巻 小学館
- 竹内増長 2000 「松本城下町における成立過程の様相」『信濃』第52巻第10号 通巻第609号 信濃史学会
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1998 『東京大学構内遺跡調査研究年報』2
- 東京都教育委員会 1991 「東京の遺跡展」—お江戸八百八町地下探検— 図録
- 長野市教育委員会 1982 「庭園都市 松代」伝統的建造物群保存対策調査報告書
- 長野市教育委員会 1984 「潤いのある庭園都市づくり」
- 長野市教育委員会 1993 「史跡 松代藩主真田家墓所」長野市の埋蔵文化財第59集
- 長浜文化財シンポジウム実行委員会 2000 「近世城下町の諸相」シンポジウム発表資料
- 日本貨幣協同組合 2001 「日本貨幣カタログ」
- 林英夫・青木美智男編 2001 『事典 しらべる江戸時代』 柏書房
- 降矢哲男 2001 「甲信地方における肥前陶磁の出土状況について」『国内出土の肥前陶磁』第11回九州近世陶磁学会資料
- 堀越正雄 1995 「日本の上水」増補改訂 新人物往来社
- 本田博太郎 1970 『松代町の民家』長野県教育委員会
- 松代藩文化施設管理事務所 1999 「城下町松代」真田宝物館開館三〇周年記念 特別展図録
- 松本市 1989 「史跡松本城北外堀外側土塁発掘調査報告書」
- 松本市教育委員会 1989 a 「史跡松本城黒門枳形内発掘調査報告書」
- 松本市教育委員会 1989 b 「松本市城西西馬出遺跡緊急発掘調査報告書」松本市文化財調査報告書 No79
- 松本市教育委員会 1996 「松本城下町跡 伊勢町一近世・町屋跡の発掘調査—」松本市文化財調査報告書 No122
- 松本市教育委員会 1997 「松本城下町跡 伊勢町第8・9・12次、本町第1・2次」—平成8年度試掘調査報告書—
松本市文化財調査報告書 No129
- 松本市教育委員会 2000 「松本城下町 本町第5次、伊勢町第19・21・22次、中町第1・2次、宮村町第1次」
—平成10・11年度試掘調査報告書— 松本市文化財調査報告書 No149
- 松本市教育委員会 2001 「松本城下町 伊勢町第23・24・25次」—平成12年度試掘調査報告書—
松本市文化財調査報告書 No154
- 丸山岩三 1990 「寛保2年の千曲川洪水に関する研究(1)~(4)」『水利科学』第34巻第1~4号
- 山田啓一・田辺淳 1985 「千曲川における寛保2年(1742)8月大洪水の考察」『第5回日本土木史研究発表会論文集』

報告書抄録

ふりがな	まつしろじょうかまちあと ～なかきまち・にしきまち・こんやまち～					
書名	松代城下町跡 ～中木町・西木町・紺屋町～					
副書名	緊急地方道路整備（街路）事業等ともなう埋蔵文化財発掘調査報告書					
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財					
シリーズ番号	第109集					
編者名	飯島哲也ほか					
編集機関	長野市教育委員会文化財課 長野市埋蔵文化財センター					
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL 026-284-0004・FAX 026-284-0106					
発行年月日	2005（平成17）年3月18日					
印刷所	鬼灯書籍株式会社（〒381-0012 長野市橋原2133-5 TEL 026-244-0235）					
ふりがな所収遺跡	ふりがな所在地	コード 市町村 遺跡番号	経緯度 （日本測地系）	調査期間	調査面積	調査原因
まつしろじょうかまちあと 松代城下町跡	長野県長野市松代町 松代546-1ほか	20201 F-033	北緯 36°33'32" 東経138°12'14"	20010705～ 20011005 20020712～ 20021010 20021111～ 20021227	3,598㎡	街路整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
松代城下町跡	集落跡	戦国時代末期～ 江戸時代初期	焼土整地層、被熱面、 洪水堆積層、	カワラケ、陶磁器、 内耳土器、瓦、灯明 皿、陶製人形、水滴、	副葬品のある幼児 骨埋葬墓	
		江戸時代前期	石垣溝、石列、			
		江戸時代中期	布堀礎石建物跡、礎石 建物跡、掘立柱建物跡、	砥沢産砥石、硯、石 臼、碁石、	18世紀初頭～前半 の大火	
		江戸時代後期	木樋、竹樋、分れ枡、 集水枡、桶、掘り井戸 跡、	金具、釘、工具、調 理具、銭貨、キセル、 刀装具、化粧道具、	上水木樋	
		幕末～ 明治時代前期	幼児骨埋葬墓	ガラス製品、亀甲製 品、動植物遺体	明治20年代の大火	
		明治時代後期～ 戦前	など	など		
要約	主に17世紀前半から明治前半にかけての町人の住む町屋と侍屋敷と考えられる遺構が確認された。土層堆積から、およそ4回の大火の痕跡と2回の洪水の痕跡を確認している。18世紀初頭から前半と考えられる焼土被熱面からは内野山北窯製品などの陶磁器類が倒壊した状況で出土した。また、江戸時代後半期に敷設された上水道管と考えられる木樋や、竹樋・枡・桶・井戸などの水道関係の遺構が多く確認された。侍屋敷の門付近と推定される地点からは、筒守という副葬品のある幼児骨埋葬墓も検出された。 出土遺物には古伊万里や瀬戸物などの陶磁器、寛永通宝や天保通宝などの銭貨、脇差や切羽などの刀装具、柄杓や毛抜き・櫛などの化粧道具、砥沢産の砥石、下駄や硯、キセルなどさまざまな種類がある。					

長野市の埋蔵文化財 発掘調査報告書一覧

1968年	第1集	『信濃長原古墳群』		第57集	『石川糸里遺跡⑦』
1976年	第2集	『浅川西条』		第58集	『松原遺跡Ⅱ』
1978年	第3集	『中村遺跡』		第59集	『史跡松代善正真田家墓所』
	第4集	『塩崎遺跡群』		第60集	『畑平遺跡・宮ノ下遺跡』
1979年	第5集	『塩崎遺跡群②』	1994年	第61集	『栗田城跡Ⅱ』
1980年	第6集	『三輪遺跡(付水内坐一元神社遺跡)』		第62集	『浅川扇状地遺跡群 三輪遺跡①、小島柳原遺跡群 上中島遺跡』
	第7集	『田中沖遺跡』		第63集	『松原遺跡Ⅱ』
	第8集	『藤ノ井遺跡群』		第64集	『小島柳原遺跡群 宮内遺跡』
	第9集	『四ツ屋遺跡(第1～3次)・徳間遺跡・塩崎遺跡群③』		第65集	『浅川扇状地遺跡群 車札ノバイパスB地点遺跡②』
1981年	第10集	『湯谷古墳群・長礼山古墳群・駒沢新町遺跡』		第66集	『石川糸里遺跡⑧』
	第11集	『箱清水遺跡・大峰遺跡・大清水遺跡』		第67集	『栗田城跡Ⅲ』
1982年	第12集	『浅川扇状地遺跡群 一車札ノバイパスA・E地点』	1995年	第68集	『浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡Ⅱ』
1983年	第13集	『浅川扇状地遺跡群野田遺跡・川田糸里の遺構・石川糸里の遺構』		第69集	『栗田城跡Ⅳ』
	第14集	『石川糸里の遺構②・上駒沢遺跡』		第70集	『八幡田沖遺跡』
	第15集	『箱清水遺跡②』		第71集	『浅川扇状地遺跡群 ニツ宮遺跡②・吉田町東遺跡』
1985年	第16集	『石川糸里の遺構③・(付上駒沢遺跡)』		第72集	『塩崎遺跡群④・石川糸里遺跡⑨』
1986年	第17集	『浅川扇状地遺跡群 一車札ノバイパスB・C・D地点』		第73集	『松代城跡Ⅱ』
	第18集	『塩崎遺跡群Ⅱ 市道松路一小田井神社地点遺跡』		第74集	『松代城跡Ⅲ』
1987年	第19集	『土口平塚塚古墳 一重紫遺跡確認緊急調査一』	1996年	第75集	『浅川扇状地遺跡群 吉田四ツ屋遺跡・三輪遺跡②・栗田原遺跡』
	第20集	『三輪遺跡②』		第76集	『浅川扇状地遺跡群 駒沢城跡・小島柳原遺跡群 内沢遺跡Ⅱ』
	第21集	『芹田小学校遺跡』		第77集	『浅川扇状地遺跡群 松ノ木田遺跡』
	第22集	『長野吉田高校グラウンド遺跡』		第78集	『布施塚1号古墳・2号古墳』
1988年	第23集	『横田遺跡群 富士宮遺跡』		第79集	『柏尾南遺跡』
	第24集	『塩崎遺跡群Ⅴ 殿屋敷遺跡』		第80集	『小島・柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡Ⅱ』
	第25集	『小島柳原遺跡群 南川内遺跡』		第81集	『桜花川扇状地遺跡群 村南遺跡』
	第26集	『東善場遺跡』		第82集	『浅川扇状地遺跡群 松ノ木田遺跡Ⅱ』
	第27集	『小柴見城跡』		第83集	『下葉ヶ谷遺跡』
	第28集	『宮崎遺跡』		第84集	『浅川扇状地遺跡群 吉田古屋敷遺跡』
	第29集	『浅川扇状地遺跡群 浅川端遺跡』		第85集	『上九反遺跡』
	第30集	『地附山古墳群』		第86集	『桜花川扇状地遺跡群 寺村遺跡』
	第31集	『町川田遺跡』	1998年	第87集	『長野遺跡群 西町遺跡』
1989年	第32集	『中条遺跡』		第88集	『小島柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡Ⅲ』
	第33集	『駒前遺跡』		第89集	『桜花川扇状地遺跡群 尾張城跡』
	第34集	『石川糸里遺跡④』		第90集	『西前山古墳』
	第35集	『藤ノ井遺跡群Ⅱ』		第91集	『桜花川扇状地遺跡群 西方遺跡・中沢城館跡』
1990年	第36集	『埋地遺跡Ⅱ』		第92集	『松原遺跡Ⅴ』
	第37集	『藤ノ井遺跡群Ⅲ』		第93集	『栗田原遺跡②・田中沖遺跡Ⅲ』
1991年	第38集	『栗田城跡・下宇木遺跡・三輪遺跡③』		第94集	『浅川扇状地遺跡群 小坂屋遺跡』
	第39集	『塩崎遺跡群⑥・石川糸里遺跡⑤』		第95集	『鎌内遺跡群 高野遺跡』
	第40集	『松原遺跡』	1999年	第96集	『南宮遺跡Ⅱ』(第1分冊・遺構編)
	第41集	『小島柳原遺跡群 中伏遺跡・浅川扇状地遺跡群 押鐘遺跡・榎田遺跡』	2000年	第96集	『南宮遺跡Ⅱ』(第2分冊・遺構編)
1992年	第42集	『田中沖遺跡Ⅱ』	2001年	第97集	『長野吉田高校グラウンド遺跡Ⅱ』
	第43集	『南宮遺跡』		第98集	『川田氏館跡・岩崎遺跡Ⅱ』
	第44集	『塩崎遺跡群⑦』		第99集	『浅川扇状地遺跡群 徳間榎田遺跡』
	第45集	『石川糸里遺跡⑥』		第100集	『四ツ屋遺跡Ⅱ』(第3分冊・写真編)
	第46集	『藤ノ井遺跡群④』	2002年	第101集	『藤ノ井遺跡群⑤』
	第47集	『浅川扇状地遺跡群 ニツ宮遺跡・本郷遺跡・梅田遺跡・相込遺跡』(2分冊)		第102集	『浅川扇状地遺跡群②・差出遺跡 三合塚西古墳・石川糸里遺跡⑩』
1993年	第48集	『小島柳原遺跡群 中伏遺跡Ⅱ』	2003年	第103集	『藤ノ井南条遺跡・浅川扇状地遺跡群 辰巳池遺跡・浅川扇状地遺跡群 榎田遺跡②』
	第49集	『浅川扇状地遺跡群 三輪遺跡④』		第104集	『浅川扇状地遺跡群 天神木遺跡・鶴爪遺跡・榎田遺跡Ⅲ』
	第50集	『浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡』		第105集	『浅川扇状地遺跡群 榎田遺跡②』
	第51集	『松原遺跡Ⅲ』		第106集	『鎌内遺跡群 南条遺跡』
	第52集	『田牧原塚遺跡』	2005年	第107集	『桜花川扇状地遺跡群 西方遺跡②』
	第53集	『岩崎遺跡Ⅱ』		第108集	『浅川扇状地遺跡群 柳原宮西遺跡・榎田遺跡・吉田古屋敷遺跡・春日遺跡』
	第54集	『古町遺跡(流入塚) 駒沢新町遺跡Ⅱ』			
	第55集	『浅川扇状地遺跡群 駒沢新町遺跡Ⅱ』			
	第56集	『上見林遺跡』			

長野市の埋蔵文化財第109集

松代城下町跡 ～中木町・西木町・榎屋町～

平成17年3月15日 印刷

平成17年3月18日 発行

編集 長野市教育委員会

発行 文化財埋蔵文化財センター

印刷 ほおずき書務株式会社